令和２（２０２０）年度　御船町立高木小学校　学校便り

高き志【こころざし】

目指す学校像

地域とともにある

勢いのある学校

No. 21（R2. 10. 14発行）文責 校長 福田雅也

「無意図的教育」を「意図的」に

「本妙寺の鐘が鳴ったら、帰ってきなさい。」

これは、外遊びに出て行ったらなかなか帰ってこなかった子どもの頃の私が、母親から言われていた言葉です。当時、私達の家族は、熊本市内の島崎町に住んでいたので、夕方の６時になると、近くにある本妙寺の鐘の音が聞こえてきてました。悪ガキだった私は、学校から帰ったら、宿題もせずにすぐに遊びに出たまま鉄砲玉だったのです。そこで、母親は、私にこの言葉をいつも言っていたのです。

今、思い返しても、その頃の外遊びの面白かったことは忘れられません。「ビー玉」「メンコ」「缶けり」「三角野球」「魚とり」「クワガタとり」「秘密基地づくり」と時間がたつのも忘れて遊んでいました。そして、その遊びは、いつも近くに住む様々な年齢の子どもが集まっての遊びでした。その中では、けんか等のトラブルが起こるのも当然です。そのような場合、年長者がそれらのトラブルを解決したり、お互いに、どうにか折り合いをつけて（謝ったり、謝られたりして）解決したりもしていました。当時はこのように、大人から教えられるのではなく、自分達自身で必然的に学んでいく場面が多くありました。

これは、一種の「無意図的な教育」だったのです。「学校教育」は目的に向かって計画的に行われる「意図的教育」です。地域の中で群れて遊んでいた頃は、遊びの中で、本来の目的（遊びを楽しむこと）とは違う内容を「結果的に」学んでいくことが多くありました。

いよいよ今日から運動会の全体練習が始まりました。今年度も半分以上過ぎましたが、コロナ禍の中、実は今年度になって全校児童が一緒に活動するのは、今回が初めてとなります。そして、このことについて気になっていたことがあります。それは、「１年生が、お手本となる上級生（６年生）の姿を直接見ていない。」ということと「６年生が、学校の顔として低学年の手本となり学校をリードする場面が持てていない。」ことでした。運動会に向けての練習の中で、やっとその機会を持つことができるのです。先日の結団式では、６年生の意欲的な姿を見ることができ、とても頼もしく感じました。６年生自身も、リーダーとして活躍できる機会を求めていたのでしょう。

運動会は、上級生が下級生をリードしながらみんなで力を合わせて成功を目指す行事です。ですから、意図的教育と言えます。しかし、その中で異学年や学級とは異なる集団で活動する場面が出てきます。そこでは、様々なトラブルや解決しなければいけない問題が起こることでしょう。私が育った時代のような地域の異年齢集団での群れ遊びによる「無意図的教育」とまではいかないまでも、少しでも「意図的に」そのような場面を作って、「６年生が優しくしてくれた。自分も上級生になったらあんなふうになりたい。」とか「上級生から応援の仕方を教えてもらった。自分も早く下級生に教えられるようになろう。」というように、子どもたちが、体験を通して大切なことを学んでくれたらと考えています。